

続 やまい一〇メモ

下肢の特徴 九〇痺れ③

院長 小林詔司

下肢の痺れでも、片方の足だけが痺れるということがあります。

特に足の指の感覚がないということがあります。

下肢に怪我などの外傷がなければ、これは脳に充血や鬱血があるのではないかと疑います。

脳と言えはこれは西洋的な表現ですが、東洋医学的には体の上に昇った血を下ろす力がないと考えています。

あるいは上の方に熱が偏って、下肢が冷えているとも表現します。

痺れは、冷えていることを示しているのです。

その状態が持続すれば、当然MRIなどの検査では判断できません。

このとき往々にして、同じ側の腕を挙げたり後に回したりすると、肩の関節がぎこちないとか痛むなどのことがあります。

このように同じ側のいくつかの部位がおかしいときは、体の右か左の半身がおかしいことを示しているのです。

これは歳をとるにしたがって多く見られるのですが、若い人でも熱が上にこもるようなことになればみられます。

その誘因となるのは体の疲れをもたらずものすべで、となります。

それは、アルコールの飲み過ぎ、仕事のし過ぎ、長く続く精神的な興奮あるいは強いショック、辛いものの摂り過ぎなどが考えられます。



それに睡眠が足らなくなれば、さらに体への負担は強くなるものです。

このような時、最近ではサプリメントなどを飲む傾向にありますが、生活を正すことが第一であることはもちろんです。

生活を正すことで一番影響の大きいのは、主食以外で習慣的にしよちゅう飲んだり食べたりしている好きなものを止める、ということですね。

好きなものは摂り過ぎる傾向にあり、いつかそれは体の中に徐々に余ることであり、体を疲れさせるからですね。

やまい一〇メモ 付録

運動(うんどう) 3

お尻の穴ではなく、臀部を締める、というのは意外と出来ないものです。下半身の安定には「足腰」と言いますが、臀部はその2つのバランスの調節に重要です。そこで臀部を鍛える方法を紹介します。

①踵をつけて、つま先を九十度程度に開き、真っ直ぐ立つ。

②両膝をできるだけ外側に開くような気持ちで太腿に力を入れる。

以上ですが、その時に注意することは、

- ・膝を曲げない
- ・腰を反らさない
- ・顔は真っ直ぐ前
- ・肩の力を抜く

その状態を5分程度続けていくと、尻たぶが締まる、尻たぶを締めるという感覚がだんだん分かってきます。(文責)

私の場合...



高橋 弘通の場合

皆さんお酒は好きですか。かくいう私もお酒は好きですが、やはり百薬の長と言われるお酒でも飲みすぎなどで体の調子を悪くするのは皆さんも体験したことがあるのではないのでしょうか。

今回は、そんなお酒と私の関係を皆さんにお話したいと思います。

いきなりですが、私は生まれつき先天性の病を右下肢に抱えております。それは下肢静脈瘤というもので、下肢の静脈が異常な程太く皮膚表面まで張り出し見た目がポコポコ波をうたっています。また静脈弁が異常でうっ血がひどく正常な左足と比べ太さが一・五倍ほど膨れて浮腫んでいます。

こんな足調子が決まって悪くなるのはやはり先ほど述べたお酒を飲みすぎた次の日です。

実際どうなるのかというと、足を心臓より下に下げるとうっ血により痛みが出たり立ち上がっても膝が曲がらないので歩くことも困難になり足を引きずる始末。

この症状を初めて体験した時はまだ積聚治療を勉強していません。お酒が原因であろうということはわかっていてもどうしてこういうことが起こるのかとても不思議でしたが、積聚治療を勉強してゆくうちに、これが冷えているということ。人間の体はやはり繋がっているのだと妙に納得したものです。お酒油断大敵。

ぼれ話

栄養食品を摂ることで体調を崩している人が大勢います。食べる物の無い時代に滋養がつくと云われていた食品は、現代人には栄養過多になりやすいので十分注意しましょう。

編集部のおすすめ

『高い城の男』

／フィリップ・K・ディック

早川書房 七六〇円十税  
小説です。しかもSF。なぜわざわざ、いまさらこの本かというところ、登場人物達が易を立てるからですね。

話は第二次世界大戦に日本とドイツが勝利した世界という設定で、そこでは勝者の日本人も敗者のアメリカ人も切羽つまった時に易神に問いかけます。筮竹は企業に常備してあり、個人でもみんなが持っている、いつでもどこでも占えるという社会です。

著者は映画「ブレッド・ランナー」(原作は邦題「アンドロイドは電気羊の夢を見るか?」ですが、個人的に映画の方が断然良い!)や「トータル・リコール」の原作者で四十代で一九六九年のアメリカ・カウンターカルチャーを生きた人です。

文中では易经を占いに用いますが、ユングの解釈した易经がうまく使われていて、ハマる人にはハマっていただけだと思います。「おすすすめ」、しばらくは易经もしくは易が出てくる物語シリーズです。

(文責)



# 猫は見ていたノ巻

私の名前はチコ。生まれて間もなくうちの先生に拾われて来たメス猫。

以来、ずっとその傍で生きてきた。

オートバイ? に轢かれ、この人の家の門の前でぐったりと動けずに居たあの日。

仕事に遅れそうなこの人が、あわてて家を出てきた時に、私はそこに居たの。

今でも覚えていているけど、その時「あーっ、なに? こんなところで猫が死んでる。困ったもんだ。急いでいるうちゅうのに」。その声に本能的に反応して、私は少し頭を動かし、まだ生きてる事を示したの。

気が付いたら動物病院にいて、三週間の入院。それからこの人と同居しているの。

このおじさん、いや、先生(先生とってても立派そうだから、そう云うのではない)だよ。ただ単純に私より先に生まれた人だからそう云うだけで、かといって「君や」さんで呼ぶのも落ち着かない。まあ、気楽だからなんとなく先生と云っているのよ。狭い世間では鍼灸治療という仕事をしているらしいけど、あまり景気の良い雰囲気は感じないわね。

「仕事で、患者さんと呼ばれる人たちの会話では、必ず、冷やさないように」とか「芯を温める」という言葉

がよく出てくる。そんな事と関係があるのかわからないけれど、私も体の具合が悪く不安になると、温かい「白湯」ばかりさんさん飲まされる。でもこれには参っちゃった。だって私は「ねこ舌」だもの。

頭や腰にも小さく毛が禿げているところがあるの。これ事故の痕だけじゃなく、お灸とかいうやつ。猫は灸の痕には毛が生えてこないって言うてるのに、お構いなしなんだから、もうッ。人間の場合はみんなその痕から立派な毛が生えてくるらしいけど、少々、痕が残ることがあるの。ときどき患者さんに嫌がられているみたい。

私はお灸や鍼をすると元気になるから我慢するけど、人間の世界ではいろんな感性の人がいるからね。いくら良くなる為だからといって、私のときみたいに一方的にならない様に気を付けないとね、先生。

ところで昨日の先生、治療が終わった後、とつても落ち込んでいた。

どうやら、治療で思ったような効果や変化が出ない患者さんが居たらしい。

そんな時の先生、まったく情けないくらい暗くなっている。先生、弱いわね。いつも患者さんの前ではあんなに平静そうにしているのにね。

ネコ思うに、人間で偉そうにしてるけど、神様じゃあるまいしって。

なんでも良くしようたって、そりゃ無理にきまつてるのに。なんでああムキになるんだらう。

それでも先生、たまに良くなった患者さんに「先生のお陰さまで……」な

んて云われると、「僕が治したんじゃないやありません。ただ体が治ろうとする力に少々手を貸しただけですから……」とかカツつけて云いながら、まんざらでもない様子。嬉しそうに輝いているよ。内心ではやっぱり「治したい」んだ。いつもの云ってること、思いが違うじゃん。

どうも、つらいとか悲しいという人を前にすると、「自分がどうにかしなければならぬ」と思って、ムキになってしまふのが治療家という人種なのかな。治しているんじゃない。良くなる手助けにすぎないといながらもそれが本音みたい。

先生、まだまだ淡々と治療するのは無理みたいね。

悟ったような猫老師に云わせると、楽にしてあげたいという思いは、結局自分自身が楽になりたいからだって聞いたことがある。きつとそうなんでしょうね。後になって冷静に考えれば、理屈ではそうかもね。でも先生を見ていると、そう思うまでには時差というか時間のひらきがあるのよ。

今日も治療の現場ではそんな事、全然頭にないみたい。とにかくなんとかしなきゃ、楽になつてもらわなきゃと必死の様子。そんな先生があたし結構好きだにやー。そう思える私もまだまだ尻の青いネコかにやー。

まあ先生、初心忘れず。難しい理屈は後からでいいから、その時感じた気持ちを大事に、一生懸命お仕事してね。

あとひとつお願い。あんまりタバコ臭いその髭すらで、私にスリスリしないでね。

思わずネコパンチが  
出ちゃうから……。



## PROFILE

原 才サム(はら おさむ)

\*大蔵鍼灸院・院長

\*日本伝統鍼灸学会・常務理事

\*了徳寺学園医療専門学校・講師

\*積聚会副会長

## お知らせ

- 2010年度講習会受付開始●
- 東京基礎1コース：土・日(全12回)
- 大阪基礎1コース：日(全12回)
- 基礎2コース：日・月(全8回)
- 応用コース：木(全10回)
- 基礎集中コース：火・水(全20回)
- 臨床実技コース：月(全4回)
- 臨床研修施設：火・水(全80回)
- 東京セミナー●
- 5月1日(土)～3日(月・祝)
- 於：三茶しゃれなあと
- 鍼灸祭●
- 5月16日(日) 13:00～
- 於：湯島聖堂講堂

編集後記

心も体も余分な力を抜くこの難しさをしみじみと感じています。なかなか無心になれません。

野平有希

# 30th

積聚会 30周年記念大会  
東京都千代田区如水会館  
2010年11月21日  
積聚会®